

校長室だより		令和5年7月25日発行
共学共高	第	
	52	発行責任者
	号	白梅学園高等学校長 武内 彰

白梅生の勇気ある行動

夏季休業日中の7月24日（月）朝、小川駅に向かう西武線の電車内での出来事である。走行する車内に1匹の虫が飛び回っていた。それゆえ、長シートに座っていた乗客たちが虫を避けるために、次々と席を立って、とうとうその長シートは空になってしまった。そのうち、その虫は長シートの背もたれと窓枠との間に止まった。そのとき、ある白梅生がその虫を素手でつかみ、しばらくそのまま持っていた。電車が小川駅に着くと、その生徒はスクールバックを肩にかけ、電車を降りて、ホームの柱のふもとにその虫をそっと放した。そうして再び電車に乗り込んだ。周囲の乗客たちが彼女の行動に感嘆するとともに、安堵する雰囲気は車内に漂ったのである。

このエピソードは、その電車の当該車両にいた乗客の方から、「白梅学園高校にはすごい生徒がいる」と寄せられたものである。私はその日の夕方に、オンラインツールを利用してこの事実を全校生徒に伝え、心当たりのある人は校長室まで来てください、と投げかけたのである。

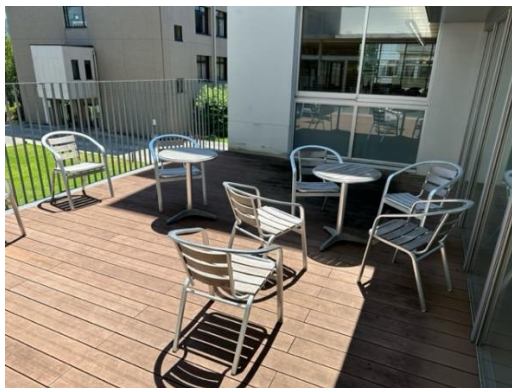
翌25日（火）の午前中に、当該の生徒が校長室を訪れてくれた。2年生のTさんである。控えめな様子で「昨日の西武線内のことで・・・」と切り出したくれた。エピソードを伝えてくださった方の生徒の容姿に関する情報と一致していたので、私はすぐにピンときた。「昨日は勇気ある行動をありがとう」「周囲の男性を含めた大人たちがみんな逃げてしまった中で、みんな感謝の気持ちをもったことと思うよ」と伝えた。彼女は、はにかんだ表情で受け答えしてくれた。虫の正体は茶色い「コガネムシ」であったようだ。カブトムシのメスを少し小さくしたような虫であったとのこと。

日頃、私が放課後に校内を巡回していると、ある教室で生徒が助けを求めてくることがある。虫がいるからだ。そういうときには、私はペーパータオルで虫を包んで「もう大丈夫だよ」と言う。また、バドミントン部の合宿において、各部屋の就寝点呼をする際に、「先生、網戸に蛾がいて眠れません。取ってください」と言われたこともある。廊下にいるカマドウマに絶叫するバドミントン部員に懇願され、素手で捕まえたこともある。それくらい、生徒たちは虫が苦手であることが通常だ。彼女の勇気ある行動は、いわば考えられないくらいの出来事なのである。

校長としては、その虫が有害なものでなくて安堵しているが、優しさと知性あふれるTさ

んの様子からは、このような行動をとることは周囲の人たちは想像できないだろうと、勝手に解釈した。

夏季休業日も始まったばかりである。夏期講習、部活動、白梅祭準備、三者面談など、夏季休業日中も毎日学校は動いている。多目的ホールやカウンター席では自習する生徒の姿も見られる。彼女たちを応援せずにはいられない。暑い夏はまだまだ続く。



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)